

日本酒で乾杯推進会議レポート



第11回総会・フォーラム&懇親パーティ



懇親パーティの冒頭、100人委員会のメンバーが勢ぞろいして「日本酒でカンパイ！」

日本酒・日本文化のルネッサンスへ、懇親と結束のひと時

日本酒と日本文化のルネッサンスを旗印に運動を続ける「日本酒で乾杯推進会議」の第11回総会とフォーラム&懇親パーティが、「日本酒の日」(10月1日)の午後、東京元赤坂の明治記念館で開催されました。会には、推進会議の会員や各界著名人の中核組織100人委員会のメンバーらおよそ500人が参加。3部構成の充実したプログラムを通じて、11年目を迎えた運動のさらなる飛躍へ、懇親と結束のひと時を楽しみました。



フォーラムでは女優の浜美枝さんら4氏がパネルディスカッション



◀「和食と日本酒」のテーマで基調講演を行った、東京大学副学長の西村幸夫氏



▶ 懇親パーティも熱気いっぱい



🍷 日本酒への追い風の中、乾杯運動の新たな1年へ向け関係者結集

日本酒からの手紙

『ニッポン人には日本が足りない、と言われて
います。』

「和服をさりげなく着こなしてみたい」
「ほどよく美しい言葉で語りかけたい」

この国で育まれてきたよき日本文化の数々。
私たちがほんの少し心がけるだけで、まだそ
れが取りもどせそうです。

日本酒を粋に飲んでみたいと思いませんか。

日本酒は、長い歴史の中でしなやかな感性と
すぐれた技術で磨きあげられてきました。

甘くて辛い「妙味の酒」。

特定の料理を選ぶことなく、心身を癒し、ご
縁をつなぎ、和(なごみ)に酔うお酒です。

あらたまった礼講からにぎやかな無礼講に移
るとき、私たちは乾杯します。

「みなさまのご発展とご健勝を祈念して…」
何に向かって祈るのでしょうか。

カミ様？ホトケ様？ご先祖様？

ニッポン人の心の奥底に宿るものとふれあう
とき、新たな力が生まれるはずですよ。

これからの人生をますます豊かなものにする
ために・・・。

日本酒で乾杯！

● 乾杯運動、10年で着実な成果

日本人なら日本酒で乾杯！日本酒で乾杯運動は、「乾杯」という行為を通じて、日本文化そして日本酒への誇りを取り戻そうという業界一丸のカルチャームーブメントです。平成16年10月、業界の熱い思いを込めた「日本酒からの手紙」(上掲載)により運動のスタートを宣言してから丸10年。この間、運動の成果は着実に積み上げられてきました。



● 会員は3万6千人、乾杯条例の制定は81件

推進母体である「日本酒で乾杯推進会議」の会員数は3万6千人を突破したほか、各界有識者で結成された中核組織「100人委員会」(代表=石毛直道 国立民族学博物館名誉教授)のもと、研究書『乾杯の文化史』(2007年)や『日本酒と日本文化』(2013年)の発刊など順調な活動を展開。自治体による乾杯条例の制定も81件(一部日本酒以外も含む)を数え、様々な場面で「日本酒で乾杯」するシーンが見られるようになってきました。さらに、日本酒を含む和食のユネスコ無形文化遺産登録や、國酒の海外進展へ向けた官民挙げての取組といった追い風も、運動を盛り上げる大きなエネルギーとなっています。



● 今大会のメインテーマは『和食と日本酒』

そんな運動の現状を確認し、新たな一年のスタートに向けて関係者全員の結束を固めるために毎年開催されているのが「総会・フォーラム&懇親パーティ」。今回も格調高い明治記念館を会場に、『和食と日本酒』～日本のかたち、日本のこころ～をテーマとした講演やパネル討論などが繰り広げられ、実りの多い一日となりました。



國酒・日本酒にふさわしい格調を湛えた明治記念館

🍷 第11回通常総会 ★ 活動報告やフォトコンテストの表彰式



第11回総会(16:00~16:30)は、100人委員会の一人で、日本酒スタイリストのこばたてるみさん(スポーツ栄養士)による開会宣言でスタート。100人委員会の石毛直道代表の挨拶、日本酒で乾杯推進会議運営委員会の西村運営委員長の活動報告に続いて、恒例となった日本酒で乾杯フォトコンテストの表彰式が行われ、大賞受賞者の香田昌浩さん(神奈川県)に石毛代表が賞状を手渡しして、榮譽を称えました。

「日本酒で乾杯推進会議」総会開会宣言

私たちは、日本を愛します。
日本文化を愛します。そして、日本酒を愛します。
「日本に乾杯」。そのはじめに、「日本酒で乾杯」。
私たちは、日本文化のルネッサンスをめざして、
ここに「第11回日本酒で乾杯推進会議」総会の
開会を宣言いたします。



◀ 「私たちは日本文化を愛します。そして日本酒を愛します」こばたてるみさんが力強く読み上げる開会宣言に、出席者全員が唱和して、いよいよ第11回総会の幕開けです。



◀ 挨拶の中で石毛代表は「和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたが、和食を洗練させてきたのは日本酒だったとも言える。いま、世界では和食と日本酒は高く評価されているが、日本人もぜひ見習ってほしい」と述べました。



◀ 活動報告を行った西村運営委員長は、自治体が進む乾杯条例制定の動きについて、「成立した81件の条例のうち、日本酒だけを対象としたものは27件。本格焼酎など他の地酒を組み合わせもの37件」などと説明。



◀ 第4回「フォトコンテスト」で、応募115点の中から見事大賞を受賞した香田さん(他に入賞5点・佳作9点)。



幸田さんの作品
「浴衣で乾杯」

🍷 フォーラム ★ 「和食と日本酒」テーマに、基調講演とパネル討論



● 「祭りと酒菜」をめぐる興味深いやり取り

『和食と日本酒』～日本のかたち、日本のこころ～をメインテーマとしたフォーラム(16:35～18:40)では、東京大学副学長の西村幸夫氏が「ユネスコ世界文化遺産と無形文化遺産のこれまでとこれから」と題して50分の基調講演を行ったのに続いて、民俗学者の神崎宣武氏(コーディネーター)、料亭「青柳」3代目主人の小山裕久氏、女優でライフコーディネーターの浜美枝氏、京都大学大学院農学研究科教授の伏木亨氏が楽しいトークを展開。「祭りと酒菜」をめぐる興味深い日本文化論に、参加者は熱心に聴き入っていました。



ユネスコの文化活動の歴史を説明する西村氏

▲ 西村氏は、文化庁文化審議会委員としての立場から、和食のユネスコ無形文化遺産登録に至るまで経緯などを説明した上で、「和食の登録で日本人が元気になった。今後も和紙や山鉾行事など提案していく」と述べました。



◀ 神崎宣武氏

「日本の伝統的食文化では、ハレの日には一汁三菜にお酒が付く。作法や器も大切で、それを皆で食べることに意義がある。せめてお正月ぐらいは家族そろって一汁三菜で楽しくお酒を飲んでほしい」



◀ 小山裕久氏

「世界に日本酒を売り込むには、まず日本人自身が日本酒を好きにならなければいけない。日本人が大事にすれば、外国の人も必ず日本酒が知りたくなるし、欲しくなると思う」



◀ 浜美枝氏

「日本酒は神様に供える酒。海外に進出することも大事だが、祈りや願い、人との繋がりといった美しい心を味わうことも大切だ。そういう國酒の心を外国の人にもわかってほしい」



◀ 伏木亨氏

「日本人にとって自然は神様の宿る場所。自然を畏れ敬うという自然観の中で、和食も酒も育ってきた。料理に勝とうとせず、料理の味をサラッと流してくれる日本酒の役目は、和食の中でとても大きい」



🍷 懇親パーティ ★ 全国の日本酒と名物料理で歓談&リフレッシュタイム



熱気いっぱいの懇親パーティ

● 滝澤行雄氏のリードで「日本酒で乾杯！」

一日の最後を飾った懇親パーティ(18:30~20:30)では、はじめに 100 人委員会メンバーが揃って鏡開きを行った後、滝澤行雄秋田大学名誉教授のリードで、参加者全員が高らかに「日本酒で乾杯！」。参加者は、およそ 70 銘柄の日本酒と全国各地の名物料理やホテルの豪華メニューを味わいながら、運動の新たな1年のスタートを前に、歓談のひと時を楽しんでいました。



会場のセンターに設けられた日本酒サービスコーナー

▶ 中締め挨拶は中央会の篠原会長。日本文化、そして日本酒の復興を願って、改めて「日本酒で乾杯！」



全国かまぼこ連合会



鹿児島県茶業会議所



全日本漬物協同組合連合会



全国珍味商工業協同組合連合会

今年も関連食品業界4団体が協賛出展



会場では推進会議の会員募集も。めざせ5万人！



日本酒が元気でうれしい!

以下は、会場で聞いた参加者の感想からー

- ・ 最近、日本酒が元気になるうれしい。誇らしく感じます。自信を持ってもっとも世界に出ていってほしい。(女性)
- ・ センターのサービスコーナー以外にも、各テーブルに300mlの日本酒とお水(和らぎ水)が用意されていて、ゆったり楽しめました。(男性)
- ・ イタリア人の友だちも、カルボナーラには吟醸酒が最高だって。当然ですよ。(女性)
- ・ 料理もおいしいけど、やっぱりお酒ね。こんなに色々なお酒が飲めて幸せ。やっぱり私も日本人なんだなって感じます。(女性)
- ・ 日本酒で乾杯！やってます。若者だって日本文化を忘れてません(男性)。

